

# 第12回 国際オートアフターマーケット EXPO2014

## International Auto Aftermarket EXPO

3月12～14日の3日間、東京ビッグサイトで開催された「第12回国際オートアフターマーケットEXPO2014（IAAE2014）」（国際オートアフターマーケットEXPO実行委員会、市川優実行委員長）が開催された。会場には国内外から約150の企業・団体が出展し、オートアフターマーケットの最新情報や活性化につながる展示を行った。3日間の延べ入場者数は同時開催も合わせ2万9949人と盛況で閉幕した。

### 3万人が来場 注目の技術・製品が一堂に集結

IAAE2014では「次世代整備」、「変革期の自動車流通」、「ニュービジネス」、「異業種、関連業種との連携／交流」など、変化のめまぐるしいアフターマーケットで注目されるこれらのテーマに、様々な企業・団体が出展し実演やプレゼンテーションを行った。

出展では自動車の補修部品・用品や整備関連機器、リサイクルパーツ関連をはじめ、塗装・板金関連機器から様々なシステムなど多岐にわたった。EVやHV等の次世代整備に関する展示、板金では高張力鋼板やアルミニウム等の素材への対応、塗装では水性塗料など近年必要とされる技術・情報が来場者の注目を集めた。

今回の開催でもこれまでと同様に「国際自動車素材・加工展」、「国際自動車通信技術展」、「スマートモビリティアジア@東京」といった展示会と同時開催し、車に携わる幅広い情報から新しいモビリティやITに関する展示が行われた。

さらにビッグサイトの会議棟および会場内に設けられたカンファレンス会場では、オートアフターマー

ケット活性化連合の住野公一代表やBSサミット事業共同組合の磯部君男理事長、全日本ロータス同友会の室谷眞一会長らによる「オートアフターマーケットサミット2014」や自動車検査法人、国土交通省、総務省等、行政の最新の取り組み、その他自動車整備、流通などオートアフターマーケットに関する様々なセミナーや実演が約30開催された。

### 商品や情報、技術が並ぶ各社ブース

リビルト部品関連からはイトーパーツや松井製作所ウラワ産業事業部、信越電装、ジャパンリビルトなどが出展。

イトーパーツはリビルド外装部品のフェンダーやバンパー、ボンネットを展示し、リビルド部品の認知度向上およびPR活動を行った。また同社主力商材のひとつであるリビルド外装部品の紹介と同時にコアの回収についても来場者に訴求した。その他のパワーステアリングポンプやドライブシャフト、ラック&ピニオン、ウォーターポンプ等については製品の取扱注意事項やポイントを紹介。製品の保証体制についても保証

書を並べて展示するなどアピールした。

松井製作所ウラワ産業事業部は今年からブースを一新し、ブース中央にあるトックススペースを拡大した。来場者とのより密接な対話を狙ったという。

新商品では昨年末に発売したホンダ・ライフの電動パワステギヤ（ECU付）を展示、そのほかにドライブシャフトや4WDカップリング付きリヤデフ等の主力製品が並んだ。

機械工具分野ではパーマンコーポ



各種リビルド外装部品が並ぶイトーパーツ

レーシヨンやTOP TUL JAPANが出展した。

D1レーシングドライバードイツ大学校（NATS）での教材用の工具にもなっているツールメーカー、TOP TUL JAPANは今開催にあわせて販売を開始した18Vコードレスインパクトレンチを展示した。同商品の電池はリチウムイオン電池を採用しており、高寿命かつ耐久性



松井製作所ウラワ産業事業部の主力製品群

18Vのコードレスインパクトレンチ  
TOP TUL



に優れている。エアークンプレッサー等が必要としないことから、工場はもちろんロードサービスからサーキット場など様々な場面で活躍が期待できる。また各種圧着ペンチの機能をひとつで実現したターミナルクランプラチェットプライヤーも来場者に注目された。

ブロードリーフは、顧客への集客支援、サービス向上支援を行い、自動車アフターマーケット全体の活性化を狙う新たな施策「街のカーウン

アフターマーケット全体の活性化狙う  
ブロードリーフ



セラ」を紹介した。「街のカーウンセラ」をキャッチフレーズとして、様々なメディアでの広報活動や店舗誘導装飾ツールの提供などにより、一般カーユーザーに認定店の魅力を分かりやすく訴求し、集客を促進する。顧客は同社による集客支援、店舗支援、教育支援を受け、条件を満たすことで認定店とされる。さらに4月1日に販売が開始された自動車整備・板金工場向けホームページ制作サービス「B.L. Home page

e(ビーエルホームページ)」についても紹介が行われた。

### 規制緩和や減税措置で企業を支援

また開会式で来賓のあいさつをした経済産業省製造産業局自動車課長補佐の潮崎雄治氏は「経産省は、これまで四輪車の生産に政策の軸足をおいてきたが、最近は政策の幅を広げつつある。二輪車、バス・トラック、部品産業、アフターマーケットの各振興策に加えて、国内の市場活性化をもう一度しっかりやるうということを経産省として深く追求していきたい」との考えを述べ、「規制緩和や減税措置などの政策で各企業の努力に対して支援していく」と今後の方針を示した。



今後の方針について話す潮崎氏